

保育者養成に保健だより作成を取り入れた授業デザイン

山本 紀久子

帝京短期大学こども教育学科

The Lesson Design on Health Newsletter Production for Childcare Teaching Materials

Kikuko YAMAMOTO

Department of Childhood Education, Teikyo Junior College

要 約

実践力のある保育者養成の教材・指導技法の開発を目的に、「保健だより」作成の課題を設定し、受講生自身で保健だより例を読み解く→テーマ選択・確認→情報収集→読み手目線で計画・作成→課題の発表→相互評価での再確認の授業デザインで実践後、保育者免許取得希望の受講生26人に、教師教育教材としての評価をアンケート調査で求めた。その結果、教師教育教材として保健だより作成の導入は、5件法で平均4.56点と高い評価を示し、「多くの知識を系統的に再認識でき、保護者・子ども視点から考える力・伝える力が総合的に身に付き、楽しく作成でき、配布され今後役に立つ」と捉えていることが窺えた。さらに、受講生全員の保健だよりの配布は、保育現場で活用可能と受講者が捉えたことから保育者教師教育教材として、積極的な採用を検討すべきと考える。

キーワード：保育者・教師教育・保健だよりの作成・授業デザイン

緒 言

保育所は、児童福祉法の改正、保育所保育指針の改訂などを受け、障がい児に対する専門的ケアなど多岐に渡り、子育て中の家庭を支援する地域の拠点として重要な役割と機能を担っている。その中で乳幼児保育を担う保育士の質の向上が責務であり、乳幼児の成長発達のための援助など、従来の「保育力」の育成だけでなく、保護者への子育てアドバイスなど、「子育て支援力」の育成を行うための幅広い専門性が求められる。

田尻（2002）は、短期大学保育者養成では実践的活動を教育の主体に置くことを述べている¹⁾。佐藤（2002）は、保育士養成校の学生の文章力は決して十分なものとは言えないこと、そして、保育者には、「園だより」や「連絡ノート」など、文章を書くことを避けるわけにはいかない²⁾とその必要性を述べている。また、関（2011）は、養成校への要望として文章表現などの文章力の指導、表現力・マナーなどの実習生の態度についての指導を挙げている³⁾。

『小児保健実習』の教育目標は、「集団生活における保健管理、保健指導の基本、緊急時における基礎的な対応について実習を通して学ぶこと」であり、『小児保健実習』の授業では、おむつ交換、沐浴、着脱、

調乳、授乳、計測、口腔ケアなどの実技演習のほか、実習の理論に加えて、健康教育の企画・発表などがある。

これまで『小児保健実習』関連の授業内容として、石井（2003）は、保育現場からの報告例として保育施設での事故防止と発生時の対応の重要性を⁴⁾、貞岡ら（2004）は、学生の捉えた視点から抱き方やおむつ交換、体温測定の高必要性をあげている⁵⁾。さらに保育者の視点から、堀井（2000）は、保育に必要な事項と行うべき事項で小児保健の知識で実践できることを⁶⁾、上山ら（2004）は、身長・体重・胸囲測定、体温・呼吸測定、事故に対する初期手当法とともに、地域の子育て相談など役割の拡大が求められるなか、分かりやすい授業方法の検討をあげている⁷⁾。

『小児保健実習』のシラバスの一部には、集団保育における健康教育⁸⁾や保育所と家庭の連携として⁹⁾、「保健だより」作成が授業内容として記載されている。

また、『小児保健実習』の教科書・参考書^{10)、11)}にも「保健だより」の掲載がみられる。さらに病気や怪我などの情報を保護者に発信できるように『保健だより』を中心に扱った書籍¹²⁾もみられるようになった。しかし、保健だより作成の指導技法とその教材性

を捉えた研究はみられない。

そこで本稿では、保育者養成の教材・指導技法の開発を目的に、「知識を習得し再構成する場として、読み手目線に視点をあてた保健だより作成」の課題を設定し、実践後、受講生に短大における教師教育教材としての評価をアンケート調査で求めた。また、それらをもとに、授業デザインの評価・検討を試みた。

研究方法

1 対象

対象は、幼稚園教員免許状及び保育士免許状取得希望の2013年度前期通信教育課程科目『小児保健実習』の受講生28人中一部欠席した2人を除く26人（男性2人、女性24人）である。

なお、受講生は、保育者志望が多いことから教材・指導技法に対して、教師と学習者の立場を意識した回答が得られる可能性があると思われる。

2 実施期間と場所

「保健だより」作成は、2013年8月19日（月）から8月23日（金）の5日間（1コマ90分×15）『小児保健実習』の2コマ180分で実施された。

場所は、T短期大学1階造形室である。

3 資料・準備物

教師側では、A4判用紙の資料（資料1参照）を用意した。内容は、目的、作成の要点（読みたくなる紙面づくり、知りたいことに答える、テーマの設定・年間計画例）、課題1、2である。さらに幼稚園や小学校で発行された保健だより20例を用意した。

保健だより作成用紙として、A4判用紙、相互評価用付箋紙と赤丸シール（4/4等分にしたもの）を受講生分用意した。また、保健だよりタイトル作成用として、同様の用紙を数枚、サインペン（細字・太字）黒を各1本用意した。

受講生は、鉛筆・色鉛筆などの筆記用具と教科書¹¹⁾を準備した。

教科書の「保健だより」例は、4月号で、挨拶文、4月の保健行事、子育て相談・健康相談の開設、生活習慣（洗顔・歯磨き・うがい・手洗い）について4項目の記載内容がみられる。

4 アンケート調査の内容項目

アンケート調査の内容項目は、5ワードによる授業イメージ、保健だより作成の自己評価と教師教育としての教材性を5件法で求めるとともに、その選択理由と感想を自由記述法で求めた。

5 手続き

受講生による保健だよりは、以下のような授業の流れで作成された。

- 1) 1日目の3コマ後半（終了40分前）に、資料「保健だより」と自作による保健だより作成用紙（A4判）を配布する。資料の記載内容を受講生が音読しながら学習内容を確認後、手書きや文章作成ソフトウェアワードによるものでも良いことを告げる。
「教科書201ページを開きます。保健だよりをみて、気づいたことを資料の裏に書きなさい。皆さんが保健だよりを間違えなく作れるように健全で批判的な目で読み解いてください」と告げ、教科書の保健だより例を読み解き、そこから分かることを記述後、発表する。
- 2) 受講生自身でテーマを2つ選び、その理由とともに資料用紙下部に記入する。テーマにあった参考資料として幼稚園や小学校発行の保健だより20例を用意するとともに、教科書やWebページから情報収集することを促す。
- 3) 3日目の1コマ後半（終了50分前）でテーマを1つに絞り、テーマと氏名を板書後、調整・決定する。その後、内容の検討・確認後、作業時間（Web検索や図書館での作業を許可した）を設けた。そして、4日目の3コマまでに提出・印刷することを告げる。
- 4) 5日目の3コマ目に作品を発表し、相互評価として赤丸シールで4作品を選択後、受講生にアンケート調査を実施する。

結果及び考察

1 「保健だより」作成授業の概要

受講生は、資料「保健だより」の音読を聞きながら、重要なところに蛍光ペンなどでアンダーラインを引き、確認する姿が多くみられた。

教科書の保健だより例の解読では、考える姿はあったものの、書く姿が少なかったところから、「誤字や言い方・書く方などの工夫がありませんか。」の発問を加えたところ、記述する受講生が増え、5分後に発表することができた。

保健だより特集題2テーマを選択するとともに、その理由を記述した受講生は参考資料の周りに集まり、手にとって読む姿がみられた。

3日目の1コマ後半（終了50分前）には1テーマに絞り、テーマと氏名を板書して確認したが1テーマに2人までは良いとし、作成を続けた。その後、作成できた受講生1人にタイトル名とそのイラストの提出

を促したところ、授業内の5分で完成し、受講生分を印刷・配布することができた。タイトル名は『おひさまだより』で下部に発行年月日と「おひさま保育園」と発行所があった。

4日目の3コマまでに提出すること、提出順に印刷することを告げたが、5人は、5日目授業前の提出となった。

5日目の3コマ目には、4月号から発行順に発表及び質疑応答を行った。質疑応答には、教科書の目次から本文をめぐって参考にする姿が多くみられた。

相互評価は、「保健だより」の右下に付箋紙を貼り、机上に展示後、受講生が良いと判断した「保健だより」4枚に赤丸シールを貼って評価した。

その後、シール得点上位5人（相互評価7点以上）が前にでて、自作保健だよりを提示しながら、工夫点・留意点などを発表した。

2 教科書の保健だより例の読み解き

教科書の保健だより例を読み解くでは21件（文章10件、内容、レイアウトの各4件、文字3件）の発表がみられた。文章は、「言葉の言い回し3件：させるが多い、早めに来ていただき→なるべく早くお迎えを、健康な生活をさせる→心掛ける」「何を伝えたいか分からないので伝えたい所を強調する」「長すぎるのもう少しイラストを使った紙面作りをする」「キャッチコピーを入れる」「手洗いをしながらなのでなぜ必要か、手洗いの歌を」「ママやパパはお家の方、保護者の方に」「強調したい文を太字に」「題はもう少しポップに分かりやすく」、内容は、「4月号2件：先生の自己紹介（初めてお預かりするので）、保健行事カレンダーがあると良い」「担当者名を記載」「健康診断の日時だけでなく、目的、持ち物や内科はパンツになる等を加える」、レイアウトは、「大切なことを中心に配置する」「文のまとまりを線等で区別する」「枠

があるとパンチ穴を入れるところがはっきり分かる」「親子で話題にできることへの配慮として分かりやすいイラストがあるといい」、文字は、「小さすぎて読みにくいので、もう少し大きく」「難しい漢字にはルビを振る」「12日が12月になっている（誤字）」であった。しかし、19日（水）については、19日（月）が正しいことには受講生も気付かなかつたため、指摘した。

年度最初の号4月号としての配慮や保護者の目線に立った分かりやすい文章・レイアウトなどの配慮が窺えた。

表1に、感想にみられた教科書の保健だより例の解読結果を示す。記述は、計54件、1人平均2.07件みられた。最も多かったのが、対処法12件（22.2%）、次に文字10件（18.5%）、レイアウト9件（16.7%）、読む立場8件（14.8%）、文章7件（13.0%）、イラスト4件（7.4%）、修正箇所チェック3件（5.6%）、発表1件（1.9%）の順であった。文字では、誤字・脱字や小さい、文章では、表現や言葉の使い方がおかしい、不適切な箇所が多い、面白みがない、イラストでは、少なさや文字との関連を記述していた。レイアウトでは、みづらい、分かりづらさをあげていた。読む立場では、批判的な見方と伝わりにくさ、修正箇所チェックでは、読む立場からの結果として、ひどい・悪い内容をあげていた。対処法では、親の立場に立つや家庭への配慮が大切なことをあげ、文字を太字・括弧や枠で囲ったり、年齢別や図表にまとめたり、言い回しや言葉尻を替えたり、レイアウトの変更等を具体的にあげていた。これらは、文字・文章・イラスト・レイアウトを健全な批判的な目で読み解き、チェック・発表することで得られたと考える。

3 保健だよりのテーマ

保健だよりの印刷の向きは、縦14件、横12件で、

表1 感想にみられた教科書の保健だより例の解読

N=54 単位：件

項目	読み解いた内容
文字 (10)	誤字 4 小さい 3 脱字 2 つまっている 1
文章 (7)	表現がおかしい 2 不適切な箇所が多い 2 多い 1 面白みがない 1 言葉の使い方 1
イラスト (4)	少ない 3 文字と合っていない 1
レイアウト (9)	みづらい 5 分かりづらい 3 冷たい印象を感じる 1
読む立場 (8)	批判的な見方 3 読む立場になると分かる面があると実感 1 伝わりにくい 1
対処法 (12)	一見全て正しく間違えを探しにくかった 1 保護者への配慮がない 1 言葉尻が強い 1 かっこ 1 太字 1 レイアウトの変更 1 親の立場に立つ 1 みやすく 1 言い回しや言葉尻を替える 1 まとめる 1 枠で囲う 1 図 1 表 1 年齢別の基本的な生活習慣 1 家庭への配慮が大切 1
修正箇所チェック (3)	作成時の注意点の参考になる 1 悪い例かと思った 1 ひどい内容と感じた 1
発表 (1)	良かった 1

表2 保健だよりのテーマ

N=26

月	保健だよりのテーマ名	計
1	冬の感染症の症状・アレルギー性鼻炎 風邪にご注意を	2
2		0
3	耳を健康に (耳の日)	1
4	よい生活習慣を身につけよう アレルギー症状のいろいろ 出席停止の病気	3
5	発達障害	1
6	手洗い・うがい・歯みがき 熱中症	2
7	子どもの便が下痢になったとき 鼻血・鼻のかみ方 夏に流行する感染症 プール開きに向けて プールの季節になりました	5
8	ペットと仲よく：動物からの感染経路と症状 自家中毒 子どもの病気と登園 夏バテを防ごう 夏かぜや感染症の予防：うがい・手あらい 夏の病気：みずいぼ・とびひ	6
9	救急時の対応：家庭内事故	1
10	薄着について 感染性胃腸炎：おう吐物・下痢の消毒の仕方	2
11	インフルエンザ	1
12	嘔吐物 子どもの事故を予防しよう：誤えん・誤飲・窒息事故	2

手書き15件、ワード使用11件であった。

表2に、保健だよりのテーマ名を示す。保健だよりのテーマは原則として、一人ひとり異なったテーマとしたが、5件(アレルギー、出席停止、プール開き、子どもの事故、嘔吐物)に重複がみられた。しかし、全て同様の内容はなく、季節や対処法に特化するなどの違いがみられた。

多かったのは、長期休暇となる7月号5件、8月号6件の計11件で、42.3%と4割強を占めた。次に多かったのは年度初めの4月号3件で、2月号は認められなかった。

記念日関連については、3月号の耳の日(3月3日)、6月号の歯磨き(6月4日むし歯予防デー)、9月号の救急の日(9月9日)の3件がみられた。

季節・行事関連については、年度初めの出席停止では、病名と登所基準を、7月号のプールの季節、プール開きでは、夏に流行する病名・症状・治療法・登園及びプールの可否を表に示し、「お子さんの体調が悪いときは無理せず休養をしっかりとって楽しく夏を過ごしましょう!!」「公共のプール等では布パンツは禁止されていますのでご注意ください」などの記載がみられた。さらに、子どもの安全・安心関連の事故・誤飲・誤嚥、救急法がみられた。

4 保健だよりの作品例

受講生による自作の保健だよりの作品3例を以下に示す。

嘔吐物特集の保健だより12月号(図1)は、縦向き・手書きで挨拶文とともに嘔吐の原因とその処理手順にわけて記述された。特に嘔吐物の処理手順を12

区分し詳細な説明文とイラストを加え、分かりやすい工夫をしていた。

自作保健だよりの自己評価は、5点満点の4点で、理由として、「保育園から出すお知らせのため、挨拶文を入れた。見て分かりやすいようにイラストプラス単語をセットにしたこと、手順を表にしたこと。イラストが苦手ですが、分かってもらえるように努力し



図1 嘔吐物特集の保健だより12月号

では、2歳以下と3歳以上に分け、イラストと説明文で工夫し分かりやすくしていた。

自作保健だよりの自己評価は、5点満点の4点で、理由として、「保護者の立場に立って、知りたい情報を集めた。子どもが分かるように工夫した。イラストの入れ方をもう少しみやすくすべきだった。保護者の立場、子どもの立場に立って考えるということの大切さを実感でき、知識を深める機会にもなったと記していた。

感想では、「作る際は、分かりやすい文章、レイアウトを考えて作成することが大切である。内容については、よく調べることで、知識が深まったように思う。言い回しによって違う意味にとられるなど、誤解を招かないように注意して書いた。」と述べていた。

そして、保健だよりの授業イメージの5ワードには、分かりやすい・情報収集・レイアウト・イラスト・保護者目線を、教師教育としての保健だよりの挿入については、5点を示し、「自分自身も病気や安全、生活習慣などについて深く調べる機会となり、保護者、子どもの立場に立った視点で考える力が身に付く。」と記し、相互評価では7点を得た。

5 受講生の5件法による保健だよりの自己評価

表3 受講生の5件法による保健だよりの自己評価

N=26					
評価点	5	4	3	2	1
人数 (%)	4 (15.4)	9 (34.6)	12 (45.2)	1 (3.8)	0 (0.0)

表3に、受講生の5件法による保健だよりの自己評価を示す。受講生の5件法による自作の保健だよりの自己評価は平均3.62（標準偏差0.80）と、自作の保健だよりに対して良い評価をしていた。

評価点5点（4人）の理由として、「シラミを知らない世代のために生態から感染経路、対処法などを細かく記載、不潔といった偏見を感じないようにイラストで「誰でも感染」を吹き出しで強調した」「みやすく分かりやすいようにあまり文字を書きすぎず、イラストを入れ、ルビを振って読めるように工夫」「みやすく分かりやすいようにイラストを描き、空白を意識し、子どもも興味を示すように工夫」「イラストを入れ、みたくなるように読みやすいように読みたくなるように、意識して作った」と、いずれもイラストを描き、子どもを意識した工夫について記述していた。

評価点2点（1人）では、「とにかくイラストが苦手なので少し頑張った」を記述し、イラストの苦手をあげていた。

6 受講生による保健だよりの相互評価

保健だよりの相互評価は、受講生が良い「保健だより」と判断した4枚の「保健だより」上の付箋紙に赤丸シール（1/4）を貼った。

得点は、0点から16点までみられた。1点（6人）が最も多く、次に2点（5人）、5点（3人）、0点、3点、4点、7点（各2人）、6点、10点、13点、16点（各1人）の順であった。

受講生が選んだ「保健だより」特集号のベスト5は、嘔吐物（16点）、インフルエンザ（13点）、耳を健康に（10点）、プール開きに向けて、子どもの事故を予防しよう（各7点）であった。

7 短大での教師教育への保健だより作成の導入

表4 教師教育への保健だより作成の導入

N=25					
評価点	5	4	3	2	1
人数 (%)	16 (64.0)	7 (28.6)	2 (8.0)	0 (0.0)	0 (0.0)

表4に、短大での教師教育への保健だより作成の導入を示す。教師教育への保健だより作成の導入について、無記入の1人を除く25人の平均は4.56（標準偏差0.65）で高い評価を示した。最も多かったのは、5点16人（64.0%）、次に4点7人（28.6%）、3点2人（8.0%）の順で、2点と1点は認められなかった。5点と4点を合わせて、23人（88.5%）で、9割弱を占めた。

5点（16人）の理由は、29件みられ、平均1.8件であった。具体的には、「楽しく経験でき、今後に役立つ」8件、「自分のだけでなく、色々なテーマを学べる」「現場でいきなり作るの難しく導入すべき」の各4件、「全部が配布され、学ぶことが多い」「作る楽しさ、作って分かることが多い」の各2件、「色々な立場から作成でき勉強になる」「課題もしっかり理解できる」「保育者と保護者をつなぎ、子どもの安全・安心を図り、園生活を送るには必要」「保護者・子どもの視点から考える力が身に付く」「知識を系統的に再認識できる」「手書きの方法が実践できる」「伝えることの大切さが総合的に分かる」「文章構成の仕方など、改めて勉強になる」「深く調べる機会がある」の各1件であった。

受講生は、教師教育の保健だより作成の導入について、「多くの知識を系統的に再認識でき、保護者・子ども視点から考える力・伝える力が総合的に身に付き楽しく作成・配布され今後役立つ」と考えていることが窺えた。

8 キーワードによる保健だより作成の授業評価

表5 保健だより作成の授業評価上位キーワード

N=114

順位	キーワード	点数(%)	累積点数(%)
1	分かりやすい	16 (14.0)	16 (14.0)
2	見やすい	15 (13.2)	31 (27.2)
3	情報収集	11 (10.0)	42 (36.8)
4	保護者目線	9 (7.9)	51 (44.3)
5	イラスト	8 (7.0)	59 (51.8)
6	注意喚起	7 (6.1)	66 (57.9)
7	レイアウト	6 (5.3)	72 (63.2)
8	作成	5 (4.4)	77 (67.5)
8	学ぶ	5 (4.4)	82 (71.9)
10	レタリング	4 (3.5)	86 (75.4)
11	テーマ	3 (2.6)	89 (78.1)
11	プレゼンテーション	3 (2.6)	92 (80.7)
11	季節	3 (2.6)	95 (83.3)
11	予防	3 (2.6)	98 (86.0)
11	出席停止	3 (2.6)	101 (88.6)
16	楽しい	2 (1.8)	103 (90.4)
16	情報提供	2 (1.8)	105 (92.1)
16	感染症	2 (1.8)	107 (93.9)

表5に、保健だより作成の授業評価上位キーワードを示す。保健だより作成の授業イメージを5キーワードであげてもらい、1人があるキーワードをあげた場合、それを1点とした。

回答点数は、3人を除く23人に114点（5点22人、4点1人）の記述がみられた。合計点数は、1人あたり平均4.96点であった。上位1位は、分かりやすい16点で、合計点数に占める割合は14.0%、上位2位から10位は、見やすい、情報収集、保護者目線、イラスト、注意喚起、レイアウト、作成、学ぶ、レタリングで、上位10位までの累計点数86点、全体の75.4%であった。11位以下の点数ごとのワード数、各小計点数、小計割合は、3点、5ワード（テーマ、プレゼンテーション、季節、予防、出席停止）、15点（13.2%）、2点、3ワード（楽しい、情報提供、感染症）、6点（5.4%）、1点、7ワード（共有、誤字脱字、スピード、丁寧、著作権、カラー、啓発）、7点（6.1%）であった。

多くの人が同じキーワードをあげたため、キーワード数としては、25ワードあった。5位以内では、59点（51.8%）、10位以内では、86点（75.4%）と、多くの受講生が同じキーワードをあげていることが分かった。

9 自由記述法による保健だより関連の記述

表6に、自由記述法による感想にみられる保健だより関連の記述を示す。保健だより関連の記述（40件）は、全員（26人）にみられ、1人平均1.54件であった。保健だより関連の記述は、概ね4項目に分類できた。最も多かったのは、作成20件（50.0%）、次に発表・評価11件（12.5%）、情報収集5件（12.5%）、教師教育4件（10.0%）の順であった。

作成（20件）については、作成の難しさの理解が7件を占めた。具体的には、作る側の難しさが分かって良かった3件、よく考え取り組む必要を実感した3件、言い回しで誤解を招かないよう注意した1件である。さらに、作成のポイントが分かった、作ることで正しい知識を再確認できた、作ることで覚えられた、内容が詳しく分かったの各3件では、知識・理解を、楽しかった2件では情意面を、手抜きせずに頑張った1件、時間がかかったが、また作ってみたい1件では学習意欲をあげていた。一方、レイアウト・簡潔にまとめる・見やすく分かりやすく書くことの各1件では、難しさの否定的記述をしていた。

発表・評価（11件）については、発表（4件）では、1人ずつの発表で事例が分かった、あがり症で発表の機会をもらい、少し勇気を培った、言葉が足されるので内容が分りやすく、情報が多い、こういう場があると色々経験できて良い、各1件で、保健だよりの発表の場があったことを記述していた。一方、評価（6件）では、自分のものと比較できて良かった3件が半数を占め、整理しまとめる工夫が勉強になった、見やすく工夫したが他の人も上手でした、みんな大変工夫してあるので、感心した、の各1件では、いずれも他の人の工夫していたことを記述していた。後の1件は、他の人のまとめ方や発表が勉強になったと発表と評価の両方が勉強になったと記述していた。

情報収集（5件）については、調べて作成することの大切さが分かった2件、保護者が必要な情報と知ってほしい情報を集めた1件、よく調べたので知識が深まった1件のいずれも情報収集の大切さを記述していた。内容は先生にすぐOKをもらったので嬉しかった1件は、内容的確さへの情意面の記述がみられた。

教師教育（4件）については、将来役立てていきたい、現場では、再チェックし分かりやすいことに努めたい、本番で書く時に色々分かって良かった、の各1件は、いずれも保育現場を想定して記述したものであり、他の1件は、やりがいのある課題でしたと、教師教育としての課題を積極的に捉えたものであった。

感想にみられた保健だより関連の記述では、肯定的記述が37件（92.5%）、否定的記述が3件（7.5%）を占めた。肯定的記述は37件に対して否定的記述

表6 自由記述法による感想にみられる保健だより関連の記述

N=40 単位：件

項目	肯定的記述 (N=37)	否定的記述 (N=3)
情報収集 5 (5/0)	調べて作成することの大切さが分かった2 保護者が必要な情報と知ってほしい情報を集めた1 内容は先生にすぐOKをもらったので嬉しかった1 よく調べたので知識が深まった1	
作成 20 (17/3)	作る側の難しさが分かって良かった3 よく考え取り組む必要を実感した3 内容が詳しく分かった3 作成のポイントが分かった3 作ることで正しい知識を再確認できた3 とても楽しかった2 言い回しで誤解を招かないよう注意した1 作ることで覚えられた1 手抜きせずに頑張った1 時間がかかったが、また作ってみたい1	レイアウトをするのが難しかった1 簡潔にまとめるのが難しかった1 見やすく分かりやすく書くことが難しい1
発表・評価 11 (11/0)	自分のものと比較できて良かった3 一人ずつの発表で事例が分かった1 あがり症で発表の機会をもらい、少し勇気を培った1 言葉が足されるので内容が分かりやすく、情報が多い1 こういう場があると色々経験できて良い1 整理しまとめる工夫が勉強になった1 見やすく工夫したが他の人も上手でした1 みんな大変工夫してあるので、感心した1 他の人のまとめ方や発表が勉強になった1	
教師教育 4 (4/0)	将来役立てていきたい1 現場では、再チェックし分かりやすいことに努めたい1 本番で書く時に色々分かって良かった1 やりがいのある課題でした1	

は、上記のように、レイアウト・簡潔にまとめる・見やすく分かりやすく書くことの各1件で、難しさの記述をしたものであった。

まとめ

実践力のある保育者養成の教材・指導技法の開発を目的に、「保健だより」を取り上げ、「保健だより」作成の課題を設定し、実践後、保育者免許取得希望の受講生26人に、教師教育教材としての評価をアンケート調査で求めた。その結果、以下の知見を得た。

- 1) 教科書の保健だより例を読み解く発表21件では、年度最初の4月号として保護者の目線に立った分かりやすい文章・レイアウトなどの配慮が窺えた。
感想からは、計54件(対処法12、文字10、レイアウト9、読む立場8、文章7、イラスト4、修正箇所チェック3、発表1)、1人平均2.07件みられ、文字・文章・イラスト・レイアウトを健全な批判的な目で読み解き、チェック・発表することで具体的に読み手に配慮したものが得られたと

考える。

- 2) 保健だよりの印刷の向きは、縦14件、横12件で、手書き15件、文章作成ソフトウェアワード使用11件であった。多かったのは、長期休暇となる7月号5件、8月号6件の計11件で4割強みられた。
記念日関連では、耳の日、むし歯予防デー、救急の日の3件がみられた。
季節・行事関連では、年度初めに出席停止の病名と登所基準、7月号プール開きでは流行する病名・症状・治療法・登園及びプールの可否、さらに子どもの安全・安心関連の事故・誤飲・誤嚥、救急法がみられた。
- 3) 受講生の5件法による自作の保健だよりの自己評価は平均3.62と良い評価をしていた。
評価点5点の理由では、いずれもイラストを描き子どもを意識して工夫をした、の記述がみられ、分かりやすく保護者目線で作成したことが窺えた。
- 4) 受講生による保健だよりの相互評価は、0点から16点までみられ、1点6人が最も多く、次に

2点5人、5点3人の順であった。受講生が選んだベスト5は、嘔吐物（16点）、インフルエンザ（13点）、耳を健康に（10点）、プール開きに向けて、子どもの事故を予防しよう（各7点）の特集号であった。

- 5) 保健だより作成の授業イメージの1位は、分かりやすい、2位から10位は、見やすい、情報収集、保護者目線、イラスト、注意喚起、レイアウト、作成、学ぶ、レタリングの順で、10位までで75.4%と、多くの受講生が同じキーワードをあげていることが分かった。
- 6) 感想にみられる保健だより関連の記述40件は、全員にみられ、1人平均1.54件で最も多かったのは、作成50.0%、次に、発表・評価12.5%、情報収集12.5%、教師教育10.0%の順で、肯定的記述が92.5%、否定的記述が7.5%を占めた。
- 7) 教師教育教材として、保健だより作成の導入について、平均4.56点と高い評価を示し、「多くの知識を系統的に再認識でき、保護者・子ども視点から考える力・伝える力が総合的に身に付き、楽しく作成でき配布され今後役に立つ」と考えていることが窺えた。

これらのことから、保健だより教材は、受講生自身で、保健だより例を読み解く→テーマ選択・確認→情報収集→読み手（保護者）目線で計画・作成→課題の発表→相互評価での再確認する指導技法を取り入れた授業デザインによって作成できたと考える。

さらに、受講生全員の保健だよりの配布は、保育現場で活用可能と受講生が捉えたことなどから、保育者教師教育教材として、積極的な採用を検討されるべきと考える。

今後、「保健だより」のサイズの大きさ、園だよりでの体裁を検討し、実践研究するとともに保健だよりの活用・改善を重ねていきたい。

注

- 1) 田尻由美子「保育士養成における環境教育の必要性とあり方について」『保育士養成研究』20、41-53、2002
- 2) 佐藤達全「保育科学生の文章表現力について」『育英短期大学研究紀要』19、70、2002
- 3) 関仁志「富山県における実習現場から保育者養成校へ求めるもの」『富山国際大学こども育成学部紀要』2、105、2011
- 4) 貞岡美伸・上山和子・福原博子・岡宏美『『小児保健実習』の授業に関する調査—学生の保育実習後の認識—』『新見公立短期大学紀要』25、179-

186、2004

- 5) 石井博子・田中哲郎「保育施設での事故防止と発生時の対応」『チャイルドヘルス』、6（2）、87-93、2003
- 6) 堀井千代子「小児保健—学ぶこと教えることを考える⑤保育士の立場から」、『小児科臨床』、53、増刊号、263、2000
- 7) 上山和子・貞岡美伸・福原博子・岡宏美『『小児保健実習』の授業内容の評価—保育者の視点からの考察—』新見公立短期大学紀要、25、161-169、2004
- 8) 本間昭子『小児保健演習』、新潟青陵大学シラバス、<http://WWW.nseiyo.ac.jp/about/syllabus/fukushi/detail/D4107.html>（アクセス2013.7）
- 9) 古川明美『子どもの保健Ⅱ』、徳島文理大学短期大学部 Web シラバスシステム、http://ss.pt.bunriu.ac.jp/syllabus/sylla_ichan.php?SUBID=54278&DEPID=6J&year=2013（アクセス2013.7）
- 10) 兼松百合子・荒木暁子・羽室俊子編、金泉志保美・竹田由美子・本間美知子『新訂小児保健実習—すこやかな育ちをサポートするために』、同文書院、224、232-237、2010
第8章 集団保育における健康教育 第3節 家庭における子育て支援としての健康教育 ④子育て支援としての「保健だより」で、作成の目的、作成にあたっての留意点とともに、テーマ年間計画例を月毎にあげ、「保健だより」4事例（トイレの使い方、夏の疲れに負けないために、熱中症対策、感染症情報・予防接種）とその活用例がみられる。さらに、＜実習のための課題＞として、4.「保健だより」をつくってみましょう。があり、保健だより作成を促している。
- 11) 白野幸子『子どもの保健Ⅱ』、医歯薬出版株式会社、201、2011
資料として、最終ページに、『保健だより（4月号）』を参考に記載している。
- 12) 中野康伸監修『楽しい！ほげんだよりイラスト&文例集』、ナツメ社、2013

保健だより 平成 年 月 日 () 番 氏名

目的

園では、園だより、クラスだより、栄養だよりのほか、保健だより（園だよりの一部を含む）が看護師や保育士によって作成される。子どもが心身ともに健康に過ごすために保護者や保育者を対象に、園が行う健康管理や健康教育の紹介で、保健情報の提供、保健行事予定などの内容がある。保護者向けの健康教育、子育て支援ともなり、通園児家庭だけでなく、地域の子育て家庭支援にも活用される。

作成の要点

① 読みたくなる紙面づくり

イラストや表・図などを入れ、分かりやすく、読みやすく、内容は多すぎない紙面づくりをしよう。そのためには、難しい言葉、タイトル（レタリング、色インクなど）、文字・用紙の大きさや保健だよりを保存する時に綴れるかなどの配慮・工夫が必要になる。親子で話題にできるものであればさらによい。

② 知りたいことに答える

月に1回の定期発行が一般的であるが、行事前や感染症発生の場合など、緊急の情報提供や他の子どもへの感染予防、家庭看護に備えるなど、臨時号として発行することもある。内容は、健康教育活動の一環として、テーマをしぼり、正しい情報を提供することが大切である。読み手である保護者が「知りたかった」「知って良かった」「ためになった」と思う内容であってほしい。また、書き手からの一方通行ではなく、読み手との Q&A、体験コーナーなども考えられる。いずれもプライバシーには十分配慮しながら内容を決定し、発行することが必要である。

③ テーマの設定・年間計画例 複数テーマを1テーマとして設定することもできる。

- 4月：年間保健行事予定 基本的な生活習慣；よい生活習慣を身に付けよう 出席停止となる病気
 - 5月：春の健康診断結果 感染症と予防接種 ぎょう虫とは 自家中毒 トイレの使い方
 - 6月：虫歯予防デー（6月4日）；歯みがき 梅雨時の健康管理；食中毒の予防、食中毒 カビ
 - 7月：熱中症 手足口病 ヘルパンギーナ（急性ウイルス性咽頭炎） プール熱 頭しらみ 虫さされ クーラーの使い方 ペットを介しての病気
 - 8月：スキンケア；とびひ みずいぼ みずむし アトピー性皮膚炎 鼻の日（8月7日）；鼻のかみ方、鼻血
 - 9月：夏に多い感染症 夏かぜ 夏バテ 救急の日（9月9日）：応急手当
 - 10月：薄着 手洗い うがいの習慣づけ 目の愛護デー（10月10日）；子どもの視力 赤い目
 - 11月：インフルエンザ 咳エチケット ノロウイルス 子どもの靴 百日咳
 - 12月：子どもの事故；やけど、窒息；誤飲と誤嚥、 水の事故 中耳炎
 - 1月：子どもと発熱；風邪 子どもの便；下痢 暖房と換気
 - 2月：事故予防 アレルギー性鼻炎；花粉症 しもやけ
 - 3月：耳の日（3月3日）；耳の話と耳掃除 中耳炎
- 特集：子どもの昼寝 発達障害； 注意欠陥多動性障害 広汎性発達障害（自閉症 アスペルガー症候群 学習障害） 正しい手洗い 汗の話 嘔吐物の処理法 子どもの心肺蘇生 その他

課題1 教科書 資料—201頁の保健だより（4月号）をみて、3カ所以上の改善箇所を指摘し、その理由とともに、この用紙裏に分かりやすく記述しなさい。

課題2 「保健・園だより」をつくってみよう。園だよりの中の一部として、あるいは、保健だよりとしてのテーマとその理由を2つ考えてみよう。